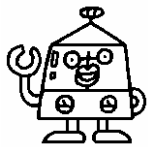


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

サケのたまごは、なぜ、人工ふ化させるの



サケは川に帰ってきて産卵^{さんらん}するので、人工ふ化で子魚をたくさん海にもどせば、たくさんのサケがとれるからさ。

たまごから、おとなにまで育つことができる魚は少ない

魚が産むたまごの数は、びっくりするほど多いものです。なぜたくさん産むかというと、鳥やほ乳動物^{にゅうどう}のように、親がたまごや赤ちゃんの世話を^{わりあい}して育てることがあまりないため、おとなになるまで、生き残れる割合が^こ少ないからです。

海にただよいながら生きているマンボウは、3～7億個ものたまごを産みますが、親になるまで生き残れるのは、ほんの数ひきぐらいでしょう。

ふつう、ほかの魚などに食われて死ぬ割合がいちばん多いのは、たまごの時期や体が小さい子魚の時期です。だから、人間がこの時期に、ほかの魚に食われないように人工ふ化や飼育^{しいく}をしてやれば、たくさんのたまごが親になれるといえます。

サケの人工ふ化は、そのために行われているのです。

大きく育った子魚を放せば、帰ってくるサケの数もふえる

サケは、自分の生まれた川に帰ってきて、たまごを産む習性^{しゅうせい}があります。たまごは川底でふ化し、大きく育った子魚になると、海に出て3～4年でおとなになり、また産卵のため川にもどってきます。だから、できるだけたくさんの育った子魚を海にもどしてやれば、川に帰ってくるサケもふやすことができます。

また、サケは産卵し終わると死んでしまうので、人間がたまごを取り出し、人工ふ化させて、たくさんの子魚を大きく育ててから川に放してやるのです。

ウナギなども、人工ふ化して育てる方法が研究されていますが、まだ、子魚を大きく育てるよい方法が、見つかっていません。

サケは、において自分の産まれた川を覚えているんだって。

